

## 一人の挑戦者であり続ける

新潟県立津南中等教育学校

三年 富井優花

私は小さい頃から負けず嫌いな性格でした。

私には双子の妹がいます。今は別々の学校で学業や部活動に励んでいます。小さい頃からいつも一緒にいました。遊んだり、喧嘩をしたり、いつも競い合う自分がいて、そこに私の負けず嫌いの性格の原点があると思います。そんな私たちは今、別々の学校でありながら同じ陸上の道へと進み、同じ「駅伝」という挑戦をしています。スポーツの世界では、自己記録を更新するといった個人の挑戦や、チームで優勝するといったチームの挑戦など、様々な挑戦があります。どんな世界でも、どんな人であっても、挑戦者であり続ける必要があると私は思っています。

「駅伝」というと、最初に「箱根駅伝」を想像する人が多いと思います。十人で二日間をかけて襷を繋ぐ。誰もが一度はTV中継を見たことがあるお正月の風物詩。毎年繰り広げられる数々のドラマ。見ている方は、どの大学が勝つのか、注目選手の走りはどうかを気にしても、実は、「駅伝」がどんなに辛くて、選手一人一人がどんな想いで走っているかまでは、なかなか想像することはないと思います。私も二年前までは、そのようなただただ楽しくTVの前で応援している駅伝ファンの一人でした。

私が陸上競技を始めたのは、中学一年生です。その頃、周りの同級生は、小学生の頃から陸上を始めた人が多い中、私は、練習についていけないか不安でした。そんな時に、ふと耳にしたのが「中学校駅伝大会」です。「テレビで見たあの感動を自分でも味わえる」と知って、胸が高鳴ったあの嬉しさは、今でも覚えています。そして私は、その日から人一倍練習をしました。練習をしていくうちに、今まで以上に走ることが楽しくなってきました。今では、部長として、陸上部・駅伝部を支えています。

そんな「駅伝」も今年で最後。一年生の時から、毎年の楽しみでもあった「駅伝」も今年で引退です。他校で頑張る妹と競い合えるのも今年で最後かもしれません。駅伝は苦しいし、練習もきついため、周りの人からは、

「何でそんなに辛い駅伝をやっているの？ 私には無理。」

と言われたことも何度もありました。それでも私は、チームのみんなで辛いことも、嬉しいことも共有し合い、励まし合い、チームのみんなの想いや涙がまわっているたった一本の襷を繋ぐ駅伝が大好きです。今年こそは、チームで県大会に出場するという目標を掲げ、また、一人一人が様々な想いを持って全力で挑戦しています。

私が何かに挑戦しようとする時に大切にしている言葉があります。それは、「挫折を経験したことのない者は、何にも新しい挑戦をしたことがないということだ」というアインシュタインの言葉です。アインシュタインは、ドイツの理論物理学者であり、かの有名な相対性理論を発見した方です。彼は、人類で誰も発見していないことに果敢に挑戦し、数々の偉業を残した人物です。そして、第一次世界大戦時には、平和運動をしている人たちの手助けを行っ

ています。世のため、人のために行動を起こす素晴らしい人物でもあったのです。このアインシュタインの言葉から、失敗を恐れずに様々なことに積極的に挑戦していこうというメッセージを受け取ることができます。これから数々の壁が自分の前に立ちますが、だかると思うけれど、アインシュタインのように果敢にその壁を、乗り越えていきたいです。

挑戦—その先にあるのは成長です。挑戦は、成長への通過点にすぎません。この先の長い人生の中で、たくさんの失敗があると思います。しかし、失敗すること人間は、様々なことを学び、成長します。私は、これからも、失敗を恐れない挑戦者であり続けたいです。一度きりの人生を後悔しないために。